

## ●土壤害虫の防除に

## 殺虫剤

# カルホス 粉剤

(イソキサチオン粉剤)

農林水産省登録第 13290 号  
 性状：類白色粉末 45 $\mu$ m 以下  
 毒性：普通物\*  
 有効年限：4 年  
 包装：1kg $\times$ 20, 3kg $\times$ 8  
 \*は毒劇物に該当しないものを指して  
 という通称

有効成分：イソキサチオン (PRTR 法第 1 種-250 号) …2.0%

### 特長

- 土壤害虫にすぐれた効果を現します。
- 土壤中でも比較的安定で、残効性があります。
- 作物への吸収移行やガス効果がなく、接触的に作用します。
- 悪臭や刺激性がないので使いやすい薬剤です。

### 適用病害虫名と使用方法

平成 22 年 1 月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
だいこん はつかだいこん	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時	1 回	土壤表面散布 土壤混和处理	1 回
はくさい キャベツ						
ねぎ			は種時 又は 植付時	2 回以内		4 回以内 (は種時は 1 回以内、 植付時は 1 回以内、 植付後は 2 回以内)
わけぎ あさつき レタス 非結球レタス トマト ミニトマト なす						2 回以内
きゅうり	タネバエ	4~6kg/ 10a	は種時	1 回	播溝土壤混和	1 回
ほうれんそう						
なばな類 (オータムポエムを除く)	ヨトウムシ類	6kg/10a	は種時	1 回	土壤表面散布 土壤混和处理	1 回
オータムポエム	ネキリムシ類		定植時		土壤表面散布	
ほうきぎ					株元散布	
いちご (仮植床)	コガネムシ類 幼虫	9kg/10a	植付時		土壤表面散布 土壤混和处理	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
うど	センノカミキリ	6kg/10a	成虫飛来初期～盛期	5回以内	散布	5回以内
だいず	タネバエ	4～6kg/10a	は種時	1回	作条施用 土壌混和	2回以内
	ネキリムシ類	4kg/10a	は種時又は定植時	2回以内		
は種時～本葉2葉期						
えだまめ	タネバエ	4～6kg/10a	は種時	1回	作条施用 土壌混和	5回以内 (粉剤及び粉粒剤のは種時の処理は合計1回以内、粉剤及び粉粒剤の定植時は合計1回以内、粉剤の土壌表面散布は1回以内、粒剤の土壌表面株元処理は2回以内)
	ネキリムシ類		定植時	1回		
	ネキリムシ類	4kg/10a	は種時～本葉2葉期	1回	土壌表面散布	
豆類 (種実、ただし、だいずを除く)	タネバエ ネキリムシ類	4～6kg/10a	は種時	1回	作条施用 土壌混和	1回
さやえんどう	コガネムシ類 幼虫	9kg/10a				
さやいんげん	タネバエ	6kg/10a				
実えんどう	コガネムシ類 幼虫	9kg/10a				
かんしょ	ドウガネブイブイ幼虫		挿苗前	挿苗前に畦内の元肥位置に散布し、土壌混和处理	4回以内 (挿苗前の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	
たばこ	ネキリムシ類	6～9kg/10a	植付前		土壌表面散布 土壌混和处理	2回以内

### ■ 効果・薬害等の注意 ■

- 土壌処理の場合は、地表面全面に均一に散布し、表層土壌とよく混和する。
- 作条処理の場合は、は種又は植付ける作条に幅広く散布し、土壌とよく混和する。
- 植穴（播穴）処理はさける。
- かんしょのドウガネブイブイ幼虫防除には、次の事項を守る。
  - 1) 挿苗前に畦内の元肥位置に散布し、畦内の土壌とよく混和する。  
畦立後ビニール、ポリエチレン等でマルチを行なう。
  - 2) 残効性が不十分なため、ドウガネブイブイの発生がおくれた場合、あるいは後期には効果が不十分になることがあるので留意する。

3) 火山灰土壌では効果が不安定であるので使用はさける。

- いちごに使用する場合は、仮植床全面に均一に散布し、表土とよく混和する。
- DCPA 剤との 10 日以内の散布はさける。
- うどのセンノカミキリ防除には、地際部によくかかるように散布する。
- つまみ菜・間引き菜には使用しない。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に対しては、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ■■■ 安全使用上の注意 ■■■

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
- 作業中は、農薬用マスクなどを着用する。作業後はうがいをする。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

治 療 法…硫酸アトロピン製剤及び PAM 製剤が有効であると報告されている。

魚毒性等…河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する（甲殻類）。散布器具・容器の洗浄水は河川等に流さない。また、空袋などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密封し、直射日光をさげ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

- 食べられません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。